

りんご栽培技術情報

～仕上げ摘果、梅雨期の防除～

☆果実肥大や花芽の確保のため、計画的に摘果作業を進めましょう
☆病害虫の発生を抑えるため、適宜対策を取りましょう

1 気象経過と3か月予報

4月～5月の気温は、概ね平年よりも高く推移しました。降水量は、時折まとまった降雨も見られましたが、乾燥が続いた期間もありました。

6月～8月の気温は平年より高め、降水量は概ね平年並の予報です。

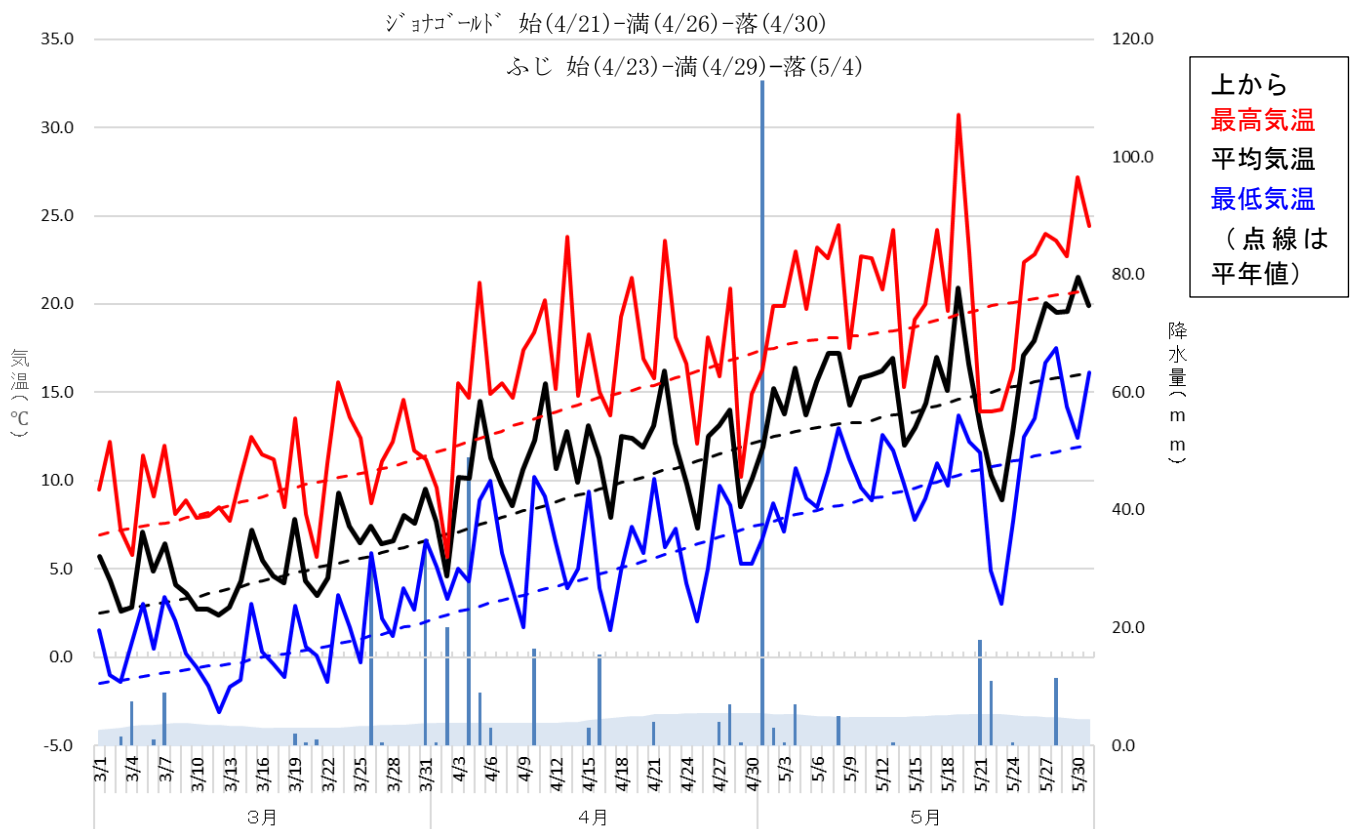


図1 気温及び降水量の推移（大船渡アメダス観測点）

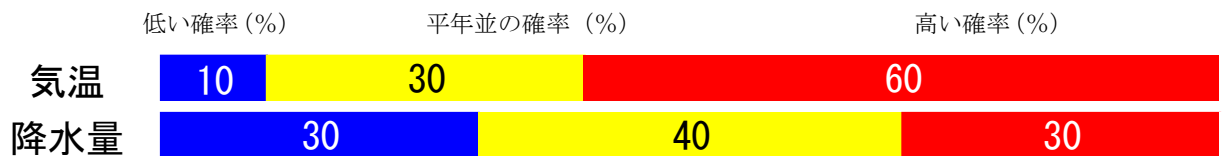


図2 東北地方3か月予報（6～8月、5月19日仙台管区气象台発表）

2 生育状況

(1) 結実率

開花期間中に降雨が重なったため、中心果結実率は平年より低い～平年並みとなりました。一方、花そう結実率は両品種とも90%以上で良好であり、作柄は平年並みとなる見込みです。

表1 定点観測ほ場（陸前高田市米崎）におけるりんごの結実状況

品種	中心花結実率			花数結実率			花そう結実率		
	R8年	平年	前年	R8年	平年	前年	R8年	平年	前年
ジョナゴールド	71.3%	71.0%	38.9%	46.8%	64.4%	34.3%	98.0%	96.6%	83.3%
ふじ	65.8%	75.1%	57.5%	69.8%	65.0%	46.5%	95.1%	93.6%	90.0%

(2) 果実肥大

3月以降の気温が高く推移し、開花期は平年よりも早まりました。このことから、令和8年の果実肥大は、両品種とも平年より前進しています。

表2 定点観測ほ場（陸前高田市米崎）におけるりんごの満開期と果実肥大状況

品種	満開期					果実肥大(mm)				
						R8調査日：6月1日				
	R8年	平年	差	前年	差	R8年	平年※	前年※	平年比※	前年比※
ジョナゴールド	4/26	5/3	-7	4/28	-2	26.3	21.6	23.9	122%	110%
ふじ	4/29	5/7	-8	4/30	-1	25.0	17.8	22.1	140%	113%

※ 果実肥大の平年値、前年値、平年比及び前年比は6月1日調査時点のもの。

3 仕上げ摘果

果実肥大や翌年の花芽確保に向けて、計画的に摘果作業を進めましょう。

(1) 作業時期の目安

仕上げ摘果は、6月下旬までに終わらせることを目標に進めましょう（表4）。以降は、収穫まで園地を見回り、生育不良果や奇形果等を適宜摘果します。

表3 摘果スケジュール

作業時期	作業内容
満開60日後まで	仕上げ摘果終了
7月前半	見直し摘果
お盆前	生育不良果（ピンコ）摘果
収穫まで	生育不良果や奇形果等の摘果

表4 今年の摘果終了目安

「ふじ」満開	満開60日後（仕上げ摘果終了）
4月29日	6月28日

※定点観察圃場（米崎）の目安

(2) 仕上げ摘果の方法

《仕上げ摘果のポイント》

- ・ 残った果実から選別し、表5を目安に着果させます。
- ・ 発育が良く、軸（つる）が太くて長く、形の良い果実をできるだけ残しましょう。
- ・ 果台枝（副梢）があり、果実の周辺に葉が多い場所に着果させましょう。
- ・ 枝の左右にバランスよく、ハサミ1つ分以上離して着果させてください。
- ・ 樹勢の弱い樹は1～2割少なく、樹勢の強い樹は1割程度多く着果させます。

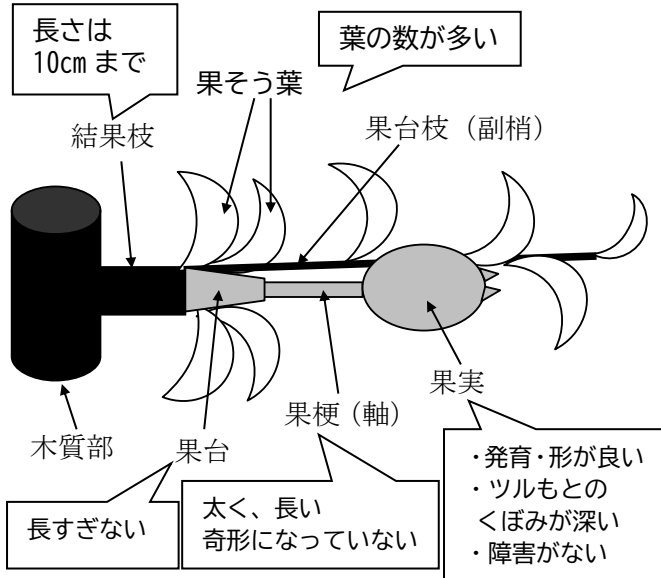


図3 素質の良い幼果（果そう）の特徴



図4 果台枝のある果そう



図5 果台枝のない果そう

表5 主要品種の摘果強度と1果あたりの葉数の目安 (1果あたり葉数は1果そうを約12葉とした場合)

品種	摘果強度	1果あたり必要葉枚数
「紅玉」	4～5頂芽に1果	50～60枚
「ふじ」・「つがる」・「王林」・「きおう」・「さんさ」 「紅ロマン」・「シナノゴールド」・「紅いわて」	5～6頂芽に1果	60～70枚
「ジョナゴールド」・「北斗」 (3倍体品種)	6～7頂芽に1果	70～85枚

《仕上げ摘果で摘果する果実》

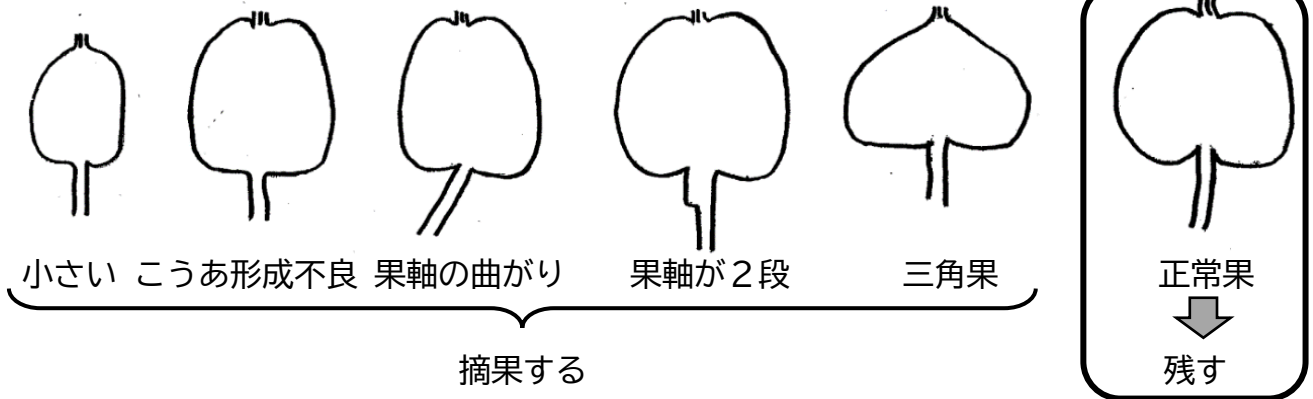


図6 摘果する果実の例

- ・ 生育に異常が見られる果実は摘果します（図6）。
- ・ 果実同士がぶつかる位置にある果実は、果実表面に傷をつける恐れがあるので、素質の良い一方を残して摘果します。
- ・ 摘果の際は、軸（果梗）を短く切りましょう（特に「ふじ」や「シナノゴールド」）。

4 徒長枝せん除

枝葉をすっきりとさせ、薬剤の防除効果や翌年の花芽形成を良くしましょう！

(1) 徒長枝せん除の効果

- ◎ 樹冠全体に日光が入るため、果実品質の向上や、花芽の充実が図られます。
- ◎ 余分な枝葉を取り去ることで、樹勢を落ち着けることができます。
- ◎ 薬剤が通りやすくなり、病害虫防除効果が高まります。

(2) 徒長枝せん除の方法

ア 実施時期

8月下旬～9月上旬に行います。

前年の着果不良等により、樹体のバランスが崩れ枝葉が繁茂している場合は、6月中・下旬にも必要最小限で実施します。

6～7月の過度な徒長枝せん除は避けましょう！

⇒ 一度伸長を停止した新梢が、二次伸長してしまい、花芽形成を阻害することがあります。

イ 実施方法

- ・ 主幹の周囲 30cmの範囲にある徒長枝をせん除します。
- ・ 可能な限り根元から間引くことで、切り口から余分な徒長枝が発生することを防げます。
- ・ 紫紋羽病発生園においては、過剰な徒長枝せん除によって樹勢が弱まり、発病を助長する恐れがあるので必要最小限にとどめます。

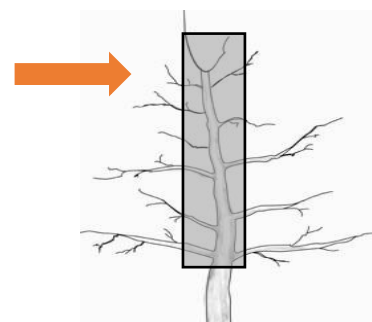


図7 徒長枝のせん除部位

5 その他の新梢管理

(1) 誘引

誘引により、立ち上がった側枝の発生角度を矯正することで、樹勢を落ち着かせることができます。

また、花芽分化前の6月中に誘引を行うことで、翌年の花芽形成を促します。

(2) 主幹の結束

結実を始めたわい性樹は、強風で倒伏することもあるため、主幹を支柱に2～3か所結束します。

また、以前に結束していたひもがほどけたり、風化して切れそうになっていたりしないか、資材が枝に食い込んでくびれていないか等、結束の見直しも行います。

6 病害虫防除

6月から7月にかけては、雨の日が多くなり、各種病害が感染しやすくなります。この時期の防除は、散布間隔が空きすぎないように注意し、雨前散布を心がけましょう。

また、気温の上昇とともに、害虫も増えやすくなってきます。園地における発生状況を確認し、発生に応じて対処してください。

(1) 防除のポイント

ア 散布は雨前に、散布間隔が空きすぎないように注意！

病害は降雨によって感染し、被害が拡大していくことが多いです。そのため、降雨の前に、予防的に散布を行うことが重要です。

また、梅雨期は降雨が多く、散布間隔が空きやすい時期です。散布予定日が雨の場合は散布日を早めたり、午後から雨でも午前中に散布したりするなど、散布間隔が空きすぎないように注意してください。

イ 農薬の収穫前日数に注意！

6月～7月の防除で使用する薬剤は、収穫前日数の長いものがあります。極早生品種（「紅ロマン」等）を栽培している園地では、いつから収穫が可能になるか、必ず確認し、薬剤散布を遅らせないようにしましょう。

◎ 6回目（6月中旬）	殺菌剤	パスポート顆粒水和剤（収穫45日前まで）
農協の防除予定日：6/9～10	⇒	45日後 ⇒ 収穫可能日 7/24～25以降
◎ 7回目（6月下旬）	殺菌剤	ジマンダイセン水和剤（またはペンコゼブ水和剤） （収穫30日前まで）
農協の防除予定日：6/22～23	⇒	30日後 ⇒ 収穫可能日 7/23～24以降
◎ 8回目（7月上旬）	殺虫剤	ダイアジノン水和剤34（収穫30日前まで）
農協の防除予定日：7/2～3	⇒	30日後 ⇒ 収穫可能日 8/1～2以降

ウ 散布むらが出ないように注意！

徒長枝が繁茂すると、薬剤がかかりにくくなり、病害虫の発生を防げない可能性があります。特に、褐斑病等は散布むらの影響が出やすいです。

徒長枝せん除により薬剤のかかりやすい樹姿を維持しましょう。また、薬剤散布時は、十分な量を散布するようにしましょう。

(2) 各種病害虫の対策

ア 腐らん病

枝幹部に発生し、春先から初夏にかけて樹皮が不正形に赤褐色になり、腐敗します。主幹や主枝に発生したものは、病斑が徐々に拡大し、幹を一周すると枯死します。

病斑が見られる枝のせん除や病斑部の削り取りを早期に行うことが重要です。病斑部を削り取る場合は、病斑部より少し大きい範囲を削り取り、その上からトップジンMペー
ースト（原液、3回以内）を塗布します。

イ 斑点落葉病

高温多湿を好み、梅雨期（6月下旬～7月下旬）に急激に感染が進みます。薬剤のかかりにくい樹上部の徒長枝から感染が拡大することが多いので、不要な徒長枝は早めに整理しましょう。

ウ 輪紋病

6月下旬～8月下旬が主要な感染時期で、この時期に高温多雨条件が続くと感染しやすくなります。幼果で感染し、果実の成熟とともに発病します。

枝幹に発生するといぼ皮症状（図8）になり、ここから孢子が飛散し、果実に感染します。枝の感染も6～7月に多いので、薬剤を主幹までしっかりと到達させ、枝幹のいぼ皮を作らないようにしましょう。

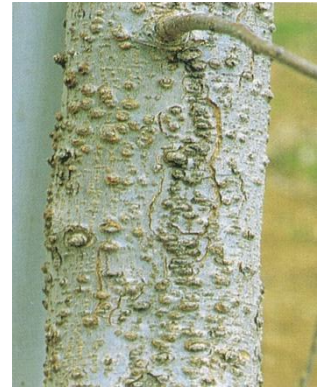


図8 主幹部のいぼ皮症状

エ 褐斑病

通常は8月以降に発生が確認されますが、高温の影響で感染時期が早まり、6月下旬頃から発生が見られる場合もあります。古い葉から発生が見られるため、古い葉を注意して観察し、初発を見逃さないようにしましょう。

梅雨期（6月下旬～7月下旬）は褐斑病の二次感染時期です。薬剤の散布むらがないようにしましょう。

8月以降、発生が確認された場合は、速やかにトップジンM水和剤（1,500倍、収穫前日まで）を特別散布します。

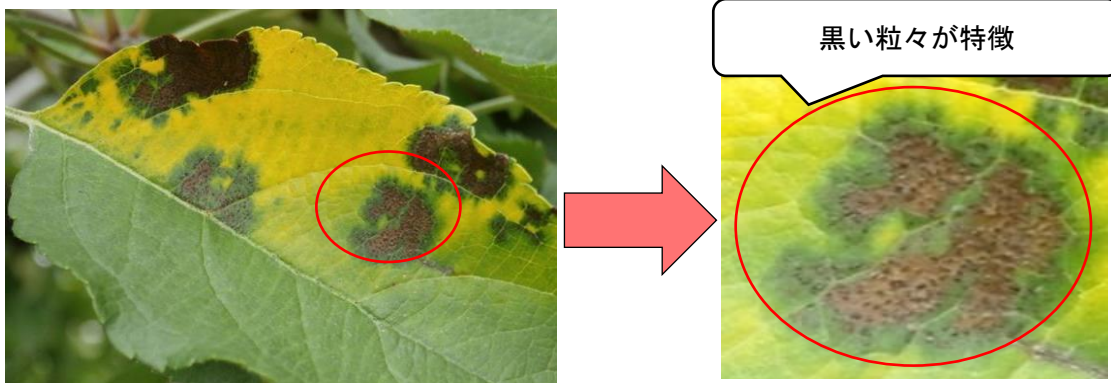


図9 褐斑病の病斑

オ カメムシ類

成虫が飛来し、果実に口吻を刺して吸汁します。園地内の飛来状況を確認し、大量の飛来が見られた場合は効果の高い薬剤で速やかに防除します。

管内では、ものの被害果が見られています。
園地を定期的に見回り、飛来状況を確認しましょう！



クサギ
カメムシ



チャバネアオ
カメムシ

カ ハダニ類

主幹近くの果そうや新梢の基部を確認し、発生を確認した場合は薬剤を十分量散布しましょう（図10）。

枝の混みあった場所は散布前にせん除し、薬剤の通りが良い樹形を維持しましょう。

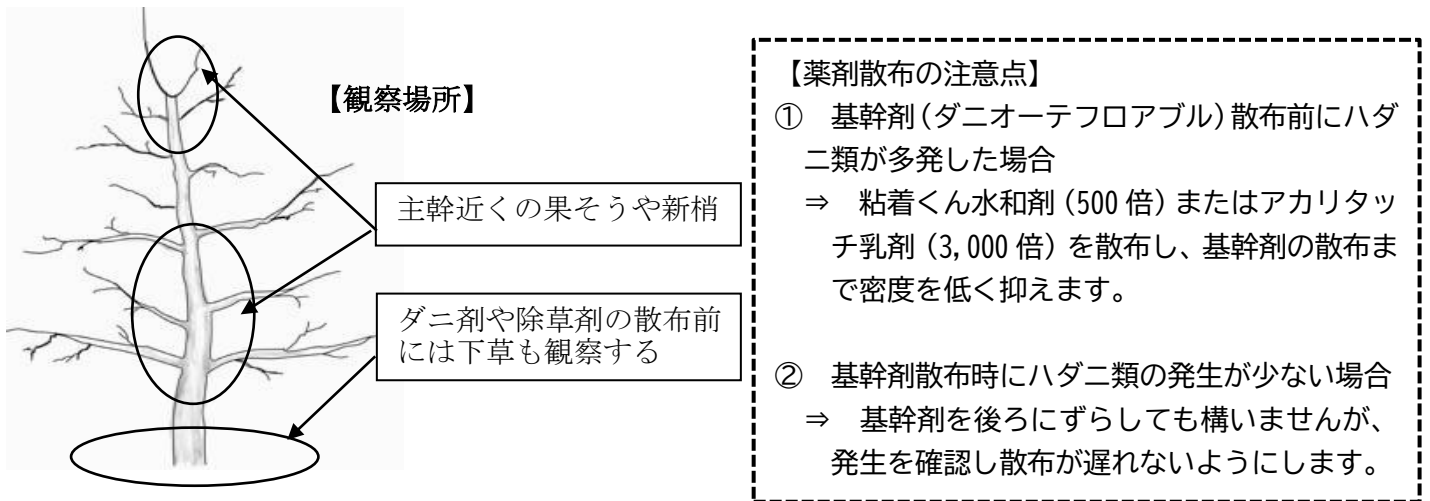


図10 ハダニ類の観察場所

【参考】ビーエー液剤（ベンジルアミノプリン液剤）を利用したフェザー苗の育成

【6月以降の管理】

5月中旬～6月上旬頃

⇒ 芽が20cm位に伸びたら1回目のビーエー液剤を処理します。

8月頃まで

⇒ 概ね10～15日間隔で新たに伸長した部分にビーエー液剤を処理します。

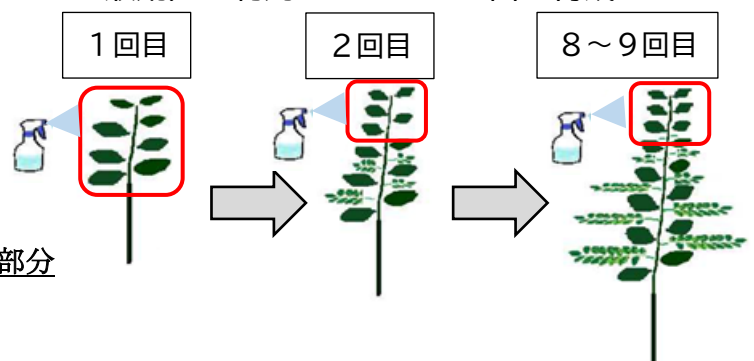


表 ビーエー液剤の登録内容（抜粋）

作物名	使用目的	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法
りんご（苗木）	側芽発生促進	50～100倍 ※	5～10ml /苗木	新梢伸長時	10回以内	新たに伸長した新梢部に散布

※ 希釈倍数 「ふじ」、「もりのかがやき」、「はるか」は100倍

「紅ロマン」、「きおう」、「紅いわて」、「シナノゴールド」、「大夢」は50倍

【資料利用上の注意】

この資料は、令和8年5月31日時点の農薬登録情報に基づいて作成しています。

農薬は、使用前にラベルの表示事項を必ず確認のうえ、使用基準を遵守し、農薬使用者が責任をもって使用してください。また、農薬の飛散防止対策に努めてください。

【連絡先】大船渡農業改良普及センター（27-9918）